

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	コミュニケーション英語Ⅱα		合同	6単位

教科書 CROWN English Communication II (三省堂)	副読本 Dual Scope English Grammar (数研出版) Database4500 テキスト、Workbook B (桐原書店) Reading Flash 2(桐原書店) Next Stage 英文法・語法問題(桐原書店) Hyper Listening Pre-Intermediate (桐原書店)
目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)予習 ア 初見では、辞書を引かず最後のセクションまで読み通す。 イ ブックレット(Lessonの内容理解のための小冊子)に取り組む。 (2)授業中 ア 帯活動(Small Talk／リスニング／速読等) イ オーラル・イントロダクション ウ リスニングによる概要把握 エ 新出語彙の確認 オ 本文の内容理解と音読 カ 新出文法のルールを理解とそれを使った自己表現 キ 自己表現(Presentation／Essay) ク Vocabulary Quiz, DataBase Quiz (週1回), Next Stage Quiz (週1回) (3)復習・宿題 ア ブックレットを読み返す。 イ 本文の音読 ウ 速読(Reading Flash 2, その他の長文) エ DataBase Workbook B, Next Stage オ Dual Scope ワークブック、基本例文活用ノート	
2 長期休業の課題 (1) DataBase 100 Quiz (2) Next Stage 100 Quiz, Next Stage Idiom 100 Quiz (3) その他、必要に応じて指定される課題	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験
発表	40	Presentation, Essay
小テスト		Vocabulary, DataBase, Next Stage Quiz
提出物		ブックレット、Dual Scopeワーク、基本例文活用ノート

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Lesson 1 Around the World on a Bike 関係代名詞の非制限用法／不定詞の意味上の主語／動名詞の意味上の主語 Lesson 2 Into Unknown Territory 関係副詞の非制限用法／受け身・否定の分詞構文／S+V+O (O=whether節) HyperListeningのListening Dual Scope 複合関係詞・仮定法 中間テスト	○劇作家・平田オリザが、16歳の時に決意したアメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅を通して、その後の人生に与えた影響について考える。 ・若いときに経験した旅を通して、実際に平田が自分の目を通してなにを感じ取ったかを読み取る。 ・若いときの冒険とはなにか考える。 ・若いときに行う冒険旅行について、自分の考えをまとめて発表する。 ○史上最強の棋士といわれる羽生善治の勝負観、さらには人生哲学に触れる。 ・羽生の強さの秘密を考察する。 ・インタビューの形式に慣れ、実際に行ってみる。 ・日本の伝統文化に触れる。 ・将棋や人生にとっても大切な我慢強さについて、自分の考えをまとめて発表する。
	Lesson 3 OOPARTS 前置詞+関係代名詞／助動詞+have+過去分詞／It is known that ～. Lesson 4 Crossing the Border 不定詞+前置詞／完了進行形／強調構文 HyperListeningのListening Dual Scope 語法/否定/強調・倒置・省略などの表現 GTEC／期末テスト	○世の中にある、過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、その存在を知る。 ・世界にある「不思議なもの」のいくつかの具体例を通して、その不思議さの秘密を読み取る。 ・「オーバーツ」の中から、自分の興味のあるものを選び、簡潔にまとめて発表する。 ・「オーバーツ」の存在について、自分の考えを発表する。 ○「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動を通じて、国際協力について考える。 ・貫戸医師の伝えたい想いをしっかり読み取る。 ・国際協力をする上で重要なことに気づく。 ・「貫戸医師のとった判断」について、自分の考えを発表する。
後期	Lesson 5 Saving Cherokee 複合関係詞／不定詞の完了形／比較級+than S+V HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章、 Lesson 6 Ashura – A Statue with Three Faces – 結果を表す不定詞／倒置／無生物主語の他動詞構文 HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章 秋中間テスト	○ネイティブ・アメリカンであるチェロキーの母語を守る闘いを通して、民族にとって母語を失わないことの意味を考える。 ・母語のチェロキー語を守るために闘い続けたチェロキーの歴史を通して、民族にとって母語とはなにかを考える。 ・「危機に瀕した言語」について、自分の考えを発表する。 ○興福寺・阿修羅像の魅力を探るとともに、奈良時代の東洋と西洋の交流について知る。 ・人々が阿修羅像に魅かれる理由を考える。 ・「仏像に癒しなどを求めること」について、自分の考えを発表する。
	Lesson 7 Why Biomimicry? 仮定法現在／if節のない仮定法／仮定法未来 HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章 Lesson 8 Working against the Clock 完了の分詞構文／受け身の進行形／S is C (C=whether節) HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章 冬中間テスト／GTEC	○新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について考える。 ・自然から「学ぶ」という態度の重要性を考える。 ・自然と人とのつながり、「共生」について考え、仲間と共有する。 ・「自然と人間との関係」について、自分の考えを発表する。 ○ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性を学ぶ。 ・本課で地雷について学んだことを、的確にまとめる。 ・日本による国際貢献、平和貢献について知る。 ・「地雷と私たちの関係」について、自分の考えをまとめて発表する。
	Lesson 9 The Long Voyage Home 独立分詞構文／未来進行形／未来完了形 HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章 Lesson 10 Grandfather's Letters 不定詞の受け身／動名詞の受け身 HyperListeningのListening 対応するDual Scope の章 学年末テスト	○「はやぶさ」の苦難の帰還をたどりながら、困難に屈さず前進することの大切さを学ぶ。 ・「はやぶさ」プロジェクト成功の理由を読み取る。 ・「はやぶさと私たちの日常生活との関係」について、自分の考えをわかりやすく発表する。 ○家族愛のこもった絵手紙に触れ、電子通信にはない手紙の良さについて考える。 ・手紙の利点・欠点、メールの利点・欠点について話し合う。 ・「メールと手紙の利点など」について、自分の考えを発表する。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年AE	コミュニケーション英語Ⅱβ		一斉	6単位

教科書 CROWN English Communication II (三省堂)	副読本 Dual Scope English Grammar (数研出版) Database4500 / Next Stage 英文法・語法問題 HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 (上記すべて桐原書店) ランダム文法問題集 (未定)
目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1) 予習 ア 事前に指定されたHomework Assignment (Lesson 冊子内容やワークブック等) (2) 授業中 ア 帯活動 (Speaking / Listening / Reading) イ オーラル・イントロダクション / 復習 (新出語彙・本文音読・弾丸インプット) ウ リスニングによる概要把握 エ 新出語彙の確認 オ 本文の内容理解と音読 カ 新出文法のルールの理解とそれを使った自己表現 キ 自己表現 (Presentation / Essay) ク Vocabulary Quiz (Lesson毎), DataBase Quiz (週1回), Next Stage Quiz (週1回) (3) 復習・宿題 ア Lesson 冊子内容 イ Dual Scope ワークブック、基本例文活用ノート、Grammar Worksheet、ランダム文法問題集 ウ DataBase Workbook B エ Next Stage 2 長期休業の課題 (1) DataBase 100 Quiz (2) Next Stage 100 Quiz, Next Stage Idiom 100 Quiz (3) Summer / Winter / Spring Work	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験
自己表現(発表)	40	Communication Card、Presentation、Essay
小テスト		Vocabulary / DataBase / Next Stage Quiz
提出物		CROWN冊子、Dual Scope 他文法問題集

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Guidance Lesson 1 Around the World on a Bike 関係代名詞の非制限用法 / 不定詞の意味上の主語 / 動名詞の意味上の主語 Dual Scope 品詞の学習 HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 Lesson 2 Into Unknown Territory 関係副詞の非制限用法 / 受け身・否定の分詞構文 / S+V+O (O=whether節) 前期中間テスト	・授業の目的、やり方、課題、評価方法を知る。 ・若いときに経験した旅を通して、実際に平田オリザが自分の目を通してなにを感じ取ったかを読み取る。 ・平田オリザが感じ取った内容について、自分の考えを書く。 ・品詞について学び、文中で的確に使えるようになる。 ・HyperListeningとReading Flashの学習方法を知り、課題を提出する。 ・羽生さんのインタビューを読み、その強さの秘密を読み取る。 ・将棋や人生にとっても大切な我慢強さについて、自分の考えを書く。 ・ネイティブ教員に対してインタビューする。
	Lesson 3 OOPARTS 前置詞+関係代名詞 / 助動詞+have+過去分詞 / It is known that ~ これまでの学習で疑問点が多い文法事項 HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 GTEC Lesson 4 Crossing the Border 不定詞+前置詞 / 完了進行形 / 強調構文 前期期末テスト	・世界にある「不思議なもの」のいくつかの具体例を通して、その不思議さの秘密を読み取る。 ・教科書に出ていない「オーパーツ」についてリサーチし、発表する。 ・これまでの文法学習で疑問点が多い文法事項を復習し、理解する。 ・HyperListeningとReading Flashを使い、Listening力と速読力を伸ばす。 ・GTECの練習をし、受験する。 ・貴戸医師の伝えたい想いを読み取る。 ・国際協力をする上で重要なことについて自分の考えを書く。
後期	Lesson 5 Saving Cherokee 複合関係詞 / 不定詞の完了形 / 比較級+than S+V Lesson 6 Ashura--A Statue with Three Faces-- 結果を表す不定詞 / 倒置 / 無生物主語の他動詞構文 HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 ランダム文法問題集 秋中間テスト	・母語のチェロキー語を守るために闘い続けたチェロキーの歴史を読み取る。 ・民族にとって言語とはどういうものかについて、自分の考えをスピーチする。 ・人々が阿修羅像に魅かれる理由を読み取る。 ・「仏像に癒しを求めること」について自分の考えを書く。 ・ランダム文法問題集で文法の基礎を固める。 ・HyperListeningとReading Flashを使い、Listening力と速読力を伸ばす。
	Lesson 7 Why Biomimicry? 仮定法現在 / if節のない仮定法 / 未来に関する仮定法 Lesson 8 Working against the Clock 完了の分詞構文 / 受け身の進行形 / S is C (C=whether節) HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 ランダム文法問題集 冬中間テスト / GTEC	・「自然から学ぶ」という態度の重要性を読み取る。 ・自然と人とのつながり、「共生」について考え、ディスカッションする。 ・「自然と人間との関係」について、自分の考えを書く。 ・地雷と地雷除去活動について読み取る。 ・日本による国際貢献、平和貢献についてリサーチし、発表する。 ・国際貢献、平和貢献について自分の考えを書く。 ・ランダム文法問題集で文法の基礎を固める。 ・HyperListeningとReading Flashを使い、Listening力と速読力を伸ばす。
	Lesson 9 The Long Voyage Home 独立分詞構文 / 未来進行形 / 未来完了形 Lesson 10 Grandfather's Letters 不定詞の受け身 / 動名詞の受け身 HyperListening Intermediate / Reading Flash 2 ランダム文法問題集 学年末テスト	・「はやぶさ」プロジェクト成功の理由を読み取る。 ・「はやぶさと私たちの日常生活との関係」について、自分の考えを書く。 ・物語を読み、その概要を読み取る。 ・手紙の利点・欠点、メールの利点・欠点についてディスカッションする。 ・「メールと手紙の利点など」について、自分の考えを書く。 ・ランダム文法問題集で文法の基礎を固める。 ・HyperListeningとReading Flashを使い、Listening力と速読力を伸ばす。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	英語会話 α		Divided	1単位

教科書 書名(出版社) None	副読本
------------------------	-----

目標・ねらい The goals of the Regular English Conversation Class are to help the students improve their English language communication and critical thinking skills, as well as foster an environment where students feel confident in expressing their thoughts and opinions. Students will also be exploring topics in English with the aim of creating international-mindedness and a sense of ownership in the world issues that impact their future.

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

In Class:
Students will participate in class discussions where they will react to recent news, human interest stories, and other media related to **World Issues & Current Events**. Pair work or group work will be required for some activities and assignments. Students are expected to give presentations in class.

Assessment:
Assessment for this class is project-based, and the approach is "production-based learning."
Testing and test-based results are not the most important assessment.

Project Assignments:
- 3 Holiday Projects - Golden Week, Summer, and Winter Holidays
- A Speech Project
- A Research Project
- A Debate Project

Exams:
- 2 End of Term Exams (July & March)
- 1 Interview Exam (October)

評価について

項目	割合	授業時における項目
Projects	40	Used to judge the student's abilities to produce both written and spoken English as well as critical thinking.
Exams & Tests	25	Spontaneous speaking & writing and argument building.
Homework	25	Used to judge the student's abilities to produce written English and think critically.
In-class Speaking & Participation	10	Used to judge spontaneous speaking & logical thinking skills as well as gauge communicative ability.

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Unit 1: April – May Focus: Fact vs. Opinion; Review of Research Standards Projects: Golden Week Holiday project Exams: None.	In the first Unit, students will review how to conduct research & using research and data in their work. Students will consider the difference between Facts & Opinions, how to recognize each, and how to use them together in their writing. There will be a holiday project in this Unit.
	Unit 2: June – July Focus: Speech Skills, Opinion & Justification Projects: Speech Project Exams: End of Term Exam.	Continuing the theme of Facts vs. Opinions, students will learn about justifying their opinions using facts. Students will apply these lessons in logical deduction in order to consider current events critically. There will be a Speech Project based on the topics covered in class, and a review of skills for making a speech in English. There will be an End of Term Exam. There will also be a speaking test before the end of term.
後期	Unit 3: Sept – Oct Focus: Objective vs. Subjective and Using Research & Data Projects: Summer Holiday Project Tests: Midterm Interview	Students will study about the differences between Objective & Subjective thinking, as well as why it is important to try to be objective in academic writing. Students will also review how to use research and data. There will be a holiday project in this Unit. There will be an interview speaking test in this Unit.
	Unit 4: Nov – Dec Focus: Argument & Counter-Argument and How to Debate Projects: Research Project Exams: None	Students will hone their argument-building skills in this Unit. Through the research project, students will research an important world issue and conduct research about it. They will present their findings (and their arguments) to their classmates. There will be a research project in this Unit.
	Unit 5: Jan – Feb Focus: Argument & Counter-Argument continued + How to Debate Projects: Winter Holiday Project & Debate Project Homework: Review of Senior 2 Exams: End of Term Exam.	Argument + Counter-argument will continue into the Unit about Debate. Students will use what they've learn this year to build persuasive and appealing arguments for debate. There will be a holiday project in this Unit. There will be a debate project in this Unit. There will be an End of Term / End of Year Exam.

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年AE	英語会話β		Divided	1単位

教科書 書名(出版社) None	副読本
------------------------	-----

目標・ねらい The goals of the Advanced English Conversation Class are to help the students improve their English language communication and critical thinking skills, as well as foster an environment where students feel confident in expressing their thoughts and opinions. Students will also be exploring topics in English with the aim of creating international-mindedness and a sense of ownership in the world issues that impact their future.

注意事項 (学習方法・長期休業の課題など)

In Class:

Students will participate in class discussions where they will react to recent news, human interest stories, and other media related to **World Issues & Current Events**. Pair work or group work will be required for some activities and assignments. Students are expected to give presentations in class.

Assessment:

Assessment for this class is project-based, and the approach is "production-based learning."

Testing and test-based results are not the most important assessment.

Project Assignments:

- 3 Holiday Projects - Golden Week, Summer, and Winter Holidays
- A Speech Project
- A Research Project
- A Debate Project

Exams:

- 2 End of Term Exams (July & March)
- 2 Interview Exams

Homework:

- Some long homework assignments and some small ("mini") homework assignments will be required in this class

評価について

項目	割合	授業時における項目
Projects	40	Used to judge the student's abilities to produce both written and spoken English as well as critical thinking.
Exams & Tests	25	Sponatneous speaking & writing and argument building.
Homework	20	Used to judge the student's abilities to produce written English and think critically.
In-class Speaking & Participation	15	Used to judge spontaneous speaking & logical thinking skills as well as gauge communicative ability.

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Unit 1: April – May Focus: Fact vs. Opinion; Review of Research Standards, Critical Reading Projects: Golden Week Holiday Project Exams: None.	<p>In the first Unit, students will review how to conduct research & using research and data in their work. Students will consider the difference between Facts & Opinions, how to recognize each, and how to use them together in their writing. Next, students will look at current world news and affairs through critical reading of events.</p> <p>There will be a holiday project in this Unit.</p>
	Unit 2: June – July Focus: Review of Speech Skills + Opinion & Justification Projects: Speech Project Exams: End of Term Exam. Speaking Test	<p>Continuing the theme of Facts vs. Opinions, students will learn about justifying their opinions using facts. Students will apply these lessons in logical deduction in order to consider current events critically.</p> <p>There will be a Speech Project based on the topics covered in class, and a review of skills for making a speech in English.</p> <p>There will be an End of Term Exam.</p> <p>There will also be a speaking test before the end of term.</p>
後期	Unit 3: Sept – Oct Focus: Objective vs. Subjective and Topics in Global Citizenship Projects: Summer Holiday Project Tests: Midterm Interview	<p>Students will study about the differences between Objective & Subjective thinking, as well as why it is important to try to be objective in academic writing. In discussion, students will reflect and discuss about topics in Global Citizenship such as human rights, environmental protection, and civic responsibilities. Through this, students will discuss major international issues and try to understand issues more deeply.</p> <p>There will be a holiday project in this Unit.</p> <p>There will be an interview speaking test in this Unit.</p>
	Unit 4: Nov – Dec Focus: Argument & Counter-Argument and Using Research & Data Projects: Research Project Exams: None	<p>Students will hone their argument-building skills in this Unit. Through the research project, students will choose a topic of importance to them and conduct research about it. They will present their findings (and their arguments) to their classmates.</p> <p>There will be a research project in this Unit.</p>
	Unit 5: Jan – Feb Focus: Argument & Counter-Argument continued + How to Debate and Media Literacy Projects: Winter Holiday Project & Persuasive Project Homework: Review of Senior 2 Exams: End of Term Exam.	<p>Argument + Counter-argument will continue into the Unit about Debate. Students will use what they've learn this year to build persuasive and appealing arguments for debate. Students will also test their knowledge of media literacy.</p> <p>There will be a holiday project in this Unit.</p> <p>There will be a Persuasive Project in this Unit.</p> <p>There will be an End of Term / End of Year Exam.</p>

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年AE	Advanced English II		一斉	4単位

教科書	副読本
目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1) 単元の学習 ア Introduction(導入) イ Brainstorming / Listening / Reading ウ Useful Expressions / Vocabulary エ Research オ Preparation for Speech / Essay / Debate / Presentation カ Speech / Essay / Debate / Presentation キ Reflection(振り返り) (2) 予習 ア 与えられた課題 (3) 授業 ア Short Speech(帯活動) イ Today's Activity (4) 復習・家庭学習 ア Given Assignments 2 長期休業の課題 (1) 国際交流行事や海外語学研修等への参加 (2) Holiday Project(コンテストへの参加) 3 その他 (1) 各種コンテスト(Speech Contest, Essay Contest)への参加 (2) 英語4技能/外部試験の受験	

観点	割合	授業時における項目
試験	40	定期テスト
発表(Oral and Written Expression)	40	Speaking Test, Parliamentary Debate, Essay, Presentation
意欲・態度	20	Communication Card, Homework Assignments

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Guidance Everyday Activity: Short Speech Weekly Assignment: Weekly Report UNIT 1: Communication Skill ① (Logical Thinking) (1) Introduction (2) How your opinion can be logical (3) Useful Expressions (4) Practice (5) Speaking Test 前期中間テスト	(1) 積極的に発言する (2) スピーチに慣れ、スピーチスキルを身に着ける (3) 即興でコメントを言ったり、Q&Aをしたりすることができる (4) ニュースの内容を説明することができる (5) ニュースに対する自分の意見を言うことができる (6) 全体とパラグラフの構成を踏まえて表現することができる (7) 論理的理由を述べるることができる
	UNIT 2: Communication Skills ② (Common Grammatical Mistakes) (1) Introduction (2) What the Common Grammatical Mistakes are and How to Fix them (3) Practice UNIT 3: Parliamentary Debate (1) Introduction & Trial (2) Useful Expressions for the Debate (3) Practice (4) Parliamentary Debate 前期期末テスト	(1) よくある文法的な間違いに気づき、自ら訂正し、間違いのないエッセイを書くことができる (2) 与えられた命題に対して、肯定/否定の立場で論理的な理由付けができる。 (3) 相手の主張に対し、論理的な反駁ができる。
後期	UNIT 4: Global Issues (1) Introduction (2) Listening / Reading (3) Vocabulary for Global Issues (4) How to describe facts (5) Research and Report 秋中間テスト	(1) 動画視聴、読む活動、リサーチを通して、貧困、紛争、子どもや女性の問題など様々な世界の問題について深く知り、考える。 (2) 世界の様々な問題に関する語彙を身に着ける (3) グラフや表など統計的な資料を使い、世界の問題についての事実を説明することができる。
	UNIT 5: Global Issues ② (1) Introduction (2) Research (3) Making the Presentation (4) Practice (5) Presentation (6) Reflection 冬中間テスト	(1) 世界の様々な問題から1つを選ぶ (2) 選んだ問題についてリサーチをする (3) データを含む事実を示した上で問題を指摘し、自分なりの解決方法を提案するプレゼンテーションを作成する (4) プレゼンテーションをする
	UNIT 6: To Make the World a Better Place (1) Introduction & Brainstorming (2) Research (3) Making the Presentation (4) Practice (5) Presentation (6) Reflection 学年末テスト	(1) 世界をより良い場所にするためにはどうすればよいか考え独自の提案内容を考える (2) データを含む事実を示した上で問題を指摘し、自分なりの提案するプレゼンテーションを準備する。 (3) プレゼンテーションをする。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	現代文B		一斉	3単位

教科書 現代文B (筑摩書房)	副読本 評論速読トレーニング1500(数研出版) 頻出漢字熟語3000 (第一学習社) 新現代文単語 改訂版(いっずな書店) ちくま評論選(筑摩書房)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の様々な文章を読むことで読解力を高め、ものの見方・感じ方・考え方を深める。 ・言語活動や表現活動を通して、自己を表現する力を身につける。 ・読書への興味関心を広げ、人生を豊かにする態度を育てる。 ・大学受験を見据えた読解力・思考力・論述力・知識を身につける。 ・小論文の書き方を身につける。 	
<p>注意事項</p> <p>学習方法 予習 指示された本文を読む(音読・読めなかった漢字、語句などをチェックする)。 分からない言葉を辞書で調べる(その際、調べたことが後で分かるように辞書に印をつける)。 重要漢字の書き取りをする。 形式段落に番号をふり、意味段落に分ける。全体の要旨をまとめる。</p> <p>復習 ノートやプリントを見直し、本文の内容、構成、表現とその効果、などを把握する。 ノートは板書だけで終わらせず、自分なりにまとめ直す。 改めて本文の要旨をまとめる。課題作文(あるいは小論文)を書く。 教材に関連した書籍を読み、理解を深める。</p> <p>長期休業の課題 読書感想文等、作文・小論文を中心に、適宜、問題集やプリントを用いる。 外部コンクールにも積極的に応募し、表現の素養を高める。</p> <p>その他 副教材(現代文単語や問題集)を用いた学習内容の確認および演習を通年の課題とし、定期試験の出題範囲とする。 漢字テスト、現代文単語テスト、小論文対策、グループ学習、発表等も実施する。 高2までに漢字検定2級取得を目指す。</p> <p>※右記の計画は学年の状況に応じて変更することがある。 ※9～10月に集中的に表現活動・探究活動を行い、授業中の実践や成果物を評価するため、秋中間テストは行わないものとする。</p>	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験4回
平常点	40	提出物・漢字テスト・単語テスト・発表 作文・小論文・探求等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	1 評論	1 評論……文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的な思考力を養う。
	2 詩	2 詩……近代を代表する詩人の作品に触れ、日本語のバラエティーと響きの美しさを感じ取る。
	中間テスト	3 小説……登場人物の心情や思考を丁寧に読み解いて把握するとともに、ストーリーがどのように展開し、描かれているのかを意識しながら読み進める能力を養う。
	1 評論	1 評論……論理の展開を理解しながら筆者の主張を読み取り、社会や人間についての考えを深める。
後期	2 小論文指導	2 小論文……言語技術で身に付けた構成を意識して書く。自分の進路に結びついたテーマについて知識を深める。
	期末テスト	
	1 評論	1 評論……多様なテーマのさまざまな文章を読むことによって、具体例が導く抽象的な概念について考察する態度を養う。
	2 小説	2 小説……本格的な文学作品を読むことを通して、作品の成り立ちを含めた立体的な読みを構築する方法を学ぶとともに読書に親しみ、人生について考えを深め、生涯にわたって国語に関わる態度を養う。
冬中間テスト		
	1 評論	1 評論……論理的な文章をその論理展開だけでなく、そこにこめられた筆者の物の見方・考え方を学び、人間や社会について考えを深める。
	2 小説	2 小説……フィクションの多様性を楽しみながら、人生や社会についての考えを深める。
学年末テスト	3 小論文	3小論文……志望理由書、大学入試対応の課題を用いて、個別の進路に添って対策を行う。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	古典総合		一斉	2単位

教科書 高等学校 古典B (明治書院)	副読本 読解をたいせつにする体系古典文法 (数研出版) つながる・まとまる古文単語500PLUS (いいずな書店) 改訂版 漢文句法マスターノート (数研出版) 改訂版 漢文重要語マスターノート(数研出版)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文や漢文を読む能力を養うと共に、作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取り、物の見方・感じ方・考え方を豊かにする。 古文や漢文を通して、日本文化の特質や中国文化の関係について考え、文学史的知識を深める。 	
<p>注意事項</p> <p>学習方法</p> <p>予習</p> <p>本文をノートに写し、品詞分解をする(※プリント等を使用する場合もある)。 本文中の重要古語の意味を調べ、現代語訳をする。</p> <p>復習</p> <p>教科書、ノート、プリント等を見直し、授業内容が理解できているか確認する。 本文すべてを現代語訳できるようになっているか確認する 問題プリントを解く。</p> <p>小テスト</p> <p>範囲を決めて、古文単語・漢文句法の小テストを行う。</p> <p>長期休業の課題</p> <p>プリントやテキストを課題とする予定。 副教材(古文単語集や漢文の習得)から範囲を決めて課題とする場合がある。 教科書の予習を課すことがある。</p> <p>その他</p> <p>副教材(古文単語集や漢文の習得)から範囲を決めて定期試験の出題範囲とする。 グループ学習、発表等も機を見て実施する。</p> <p>※右記の計画は学年の状況に応じて変更することがある。 ※9～10月に集中的に表現活動・探究活動を行い、授業中の実践や成果物を評価するため、秋中間テストは行わないものとする。</p>	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60～70	定期試験4回
平常点	30～40	提出物・小テスト・発表・探求等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	古典文法(助動詞・助詞)の確認 文学史『上代から中古の文学』 古文・説話 漢文・故事逸話 中間テスト	高校1年で学んだ古典文法の復習を行う。 上代から中古までの代表的な文学作品並びに時代背景を理解する。 話の展開を楽しみながら、古典文法、重要古語等、古典学習の基礎的知識を定着させていく。 正確な音読、重要語彙、重要句法等、漢文の基本事項を押さえつつ、故事成語の意味、成り立ちについて理解する。
	文学史『中世の文学』 古典文法(敬語法) 古文・物語 漢文・史話史伝 期末テスト 探求学習	中世の代表的な作品並びに時代背景を理解する。 古典文法の敬語法について理解し、必要事項を暗記する。 敬語表現を手掛かりに主体を確認しながら、物語の流れを把握する。 大きな歴史の流れも、常に具体的な事件・個々の状況を通して描かれるという中国史書の普遍的手法を理解する。
	文学史『近世の文学』 古文・随筆 古文・歌物語 漢文・詩 冬中間テスト	近世の代表的な作品並びに時代背景を理解する。 重要古語・古典文法を押さえつつ話の内容を理解し、作者の感じ方・考え方をつかむ。 物語内容をしっかり押さえ、和歌をクライマックスとする歌物語の特徴について理解する。 漢詩の規則を一通り覚えるとともに、音読を繰り返し行い、漢詩の簡潔で格調高い表現を味わう。
	日記 寓話 学年末テスト	古文の読解上必要な基本語彙・文法を確認しながら、作者の置かれた状況や心情をとらえ、自照文学としての日記文学の特性を理解する。 これまで習ってきた重要語彙・句法を復習しつつ、話に込められた寓意について考え、その背景にある思想の核心をつかむ。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	古典研究		分割	2単位

教科書 新高等学校 古典B (明治書院)	副読本 読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法 (数研出版) つながる・まとまる古文単語500PLUS (いいずな書店) 改訂版 漢文句法マスターノート (数研出版) 改訂版 漢文重要語マスターノート(数研出版)
-------------------------	--

目標・ねらい
 ・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
 ・作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取ることで物の見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育てる。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

学習方法
 古文
 授業前に指示された本文の品詞分解を行う。(※プリントなどを使用する場合もある。)
 現代語訳しておく。
 難読語の読み、重要単語の意味を単語帳・古語辞典で調べる。
 本文を声に出して読む。
 授業後は、作品の教科書に掲載されていない部分や関連した書籍を読んで理解を広げる。

漢文
 授業前に指示された本文を書き下し文にする。(※プリントなどを使用する場合もある。)
 本文の重要漢字の読み、意味・重要句法の書き下し、訳し方を調べておく。
 また、書き下し・訓点の施し・口語訳をしておく。
 授業後は白文を訓読し、理解できているか確認する。

※学年の状況に応じて単元が前後することがある。
 ※9～10月に集中的に演習を行い、授業中の実践や成果物を評価するため、秋中間テストは行わないものとする。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	70～80	定期試験4回
平常点	20～30	ノート・プリント提出等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	古文 用言・助動詞の確認 説話 物語	古文 高1で学習した用言(動詞・形容詞・形容動詞)や助動詞などの文法事項を確認する。 説話や物語の展開を理解し、読み解く力をつける。
	漢文 逸話	漢文 句法を確認し、文意を理解する。
	中間テスト	
後期	古文 助詞 日記 随筆 物語	古文 古典文法・助詞について理解する。 作者のもの見方や考え方を捉え、作品に通底する思想を理解する。
	漢文 小説 漢詩 句法の確認 期末テスト 古典文法、漢文句法等の復習	漢文 句法を確認し、作品の背景に関する知識を確認し、文意を理解する。
	古文 敬語法 随筆 物語	古文 敬語について理解する。 今までに学習した古文の知識をふまえ、語句の意味を正しくとらえ、文脈に沿って読解する。
	漢文 句法の確認 史話・史伝	漢文 句法を理解する。 物語の登場人物の心情を正確に読み取る。
	冬中間テスト	
	古文 物語	古文 歴史物語について理解する。 長編展開の冒頭部における人間関係を把握する。
	漢文 句法の確認 思想	漢文 句法を理解する。 長文読解の力を身につける。古代中国の思想を理解する。
	学年末テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	世界史B		一斉	4単位

教科書 詳説世界史 (山川出版)	副読本 詳説世界史ノート(山川出版) 最新世界史図説タペストリー(帝国書院)
---------------------	--

目標・ねらい
歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

1 学習方法
(1)進度がはやく、各定期試験の内容が多くなるため、日頃の学習計画を立て、授業があった日には復習をしっかりと行うこと。
(2)基礎的事項を頻りに小テストで確認するため、日頃から準備をしておくこと。
(3)授業進度にあわせて、自ら問題集を解いていくこと。
(4)プリント学習となるので、授業で配布するプリントで授業内容を復習すること。

2 その他
(1)長期休業中は歴史に関連する史跡や資料館、博物館などに足を運ぶことが望ましい。また、旅行先の観光協会などを通じて歴史を学びとるなど、広い見聞を持つこと。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験5回
平常点	40	プリント提出・小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	序章 先史の時代 第1章 オリентと地中海世界 第2章 アジア・アフリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界、 東アジア世界の形成と発展	・人類の特性について理解する。 ・オリент諸国の政治的・社会的特色を理解する。 ・ギリシア・ローマが後世のヨーロッパ文明の発展の基礎を築いたことを理解する。 ・日本を含む東アジア世界の形成過程を把握する。
	中間テスト 第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 期末テスト 第6章 内陸アジア世界、 東アジア世界の展開	・イスラーム文化、世界の形成と拡大の過程を把握する。 ・キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を把握する。
後期	第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 秋中間テスト 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 冬中間テスト	・アジアの多様な自然条件とそこに登場する民族の特徴を理解する。 ・アジア国家の発展と、ヨーロッパ諸国の進出による社会の変容について理解する。 ・16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ、アフリカとの関係を理解する。
	第10章 近代ヨーロッパ、アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展 学年末テスト	・近代ヨーロッパにおける国民国家形成と産業社会の成立過程を理解する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	日本史B		一斉講義・協働学習	6単位

教科書 詳説日本史B (山川出版社)	副読本 最新日本史図表 (第一学習社) 詳説日本史ノート(山川出版社)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につける。 次世代を担う市民(主権者)として、歴史に学び未来をつくる資質・能力を身につける。 	
<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 授業について</p> <p>(1)授業は大まかに①ミニレッスン(10分前後の講義)②協働学習③本時の振り返りの流れで行う。</p> <p>(2)①先生の話をよく聞き、メモをとるなど学習の見直しをもつ。</p> <p>(3)②提示された課題(問い)について自分で考えたり、クラスメイトと協力することで、問題解決する。</p> <p>(4)③本時の自分の学びを振り返り、自己点検することで、よりよい学び方を考える。</p> <p>(5)上記のほか、授業中に湧き上がってきた問いについて、みずから整理し、追及したりする。</p> <p>2 自宅学習について</p> <p>(1)授業進度にあわせて、事前にワークノートを解いてくる。</p> <p>(2)日頃の学習計画を立て、授業があった日には復習をしっかりと行う。</p> <p>(3)基礎的事項を小テストで確認するため、日頃から準備をしておくこと。成績不振者には追試を行う。</p> <p>(4)各定期試験の範囲調整のため、各定期試験の間にこれと同程度の試験を行う。 試験での成績不振者にも追試を行う。</p> <p>3 定期テスト</p> <p>(1)漢字解答が原則であるため、対策として自分なりの学び方を工夫する。</p> <p>(2)問題量が多いため試験の時間配分に留意する。</p> <p>3 その他</p> <p>(1)長期休業中は歴史に関連する史跡や資料館、博物館などに足を運ぶことが望ましい。また、旅行先の観光協会などを通じて歴史を学びとるなど、広い見聞を持つこと。</p>	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験5回
平常点	40	プリント提出・小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や大陸文化の影響による生活の変化、原始の社会について理解する。 日本における国家形成と律令体制確立の過程、東アジア世界との交流について理解する。 東アジア世界との関係の変化、土地制度や武士の台頭、中世社会の萌芽について理解する。
	中間テスト	
	第4章 中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> 武士の土地支配と公武関係に着目し、武家政権の形成過程を理解する。 日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目し、産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開を理解する。 ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国などその後の対外関係、支配体制と身分制度に着目して、織豊政権、幕藩体制の特質について理解する。
	期末テスト 第5章 武家社会の成長	
後期	第6章 幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成を理解する。
	秋中間テスト	
	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	
	冬中間テスト	
後期	第9章 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 開国、幕府の滅亡と新政府の成立について理解する。 明治時代の近代日本の歩みについて、国際環境と関連付けて理解する。
	学年末テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	地理A		一斉	2単位

教科書 基本地理A(二宮書店) 高等地図帳(二宮書店)	副読本 ニューコンパスノート地理2020(とうほう)
目標・ねらい 現代世界の地理的事象を自然環境や産業、都市などの項目別に追求して各地の地域性を明らかにする。また、その地域的差異を地形、気候、文化や歴史など多面的な視点で捉え、地球規模で起こっている諸課題解決への積極的な姿勢を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○学習方法 (1) 授業では、黒板を写すだけでなく話の中で必要事項を判断し、ノートに記入すること (2) 上記の授業内容を、いろいろな資料などを使って調べながらノートにまとめること。 (3) 学習習慣定着のため、小テスト対策や課題提出は、必ず行うこと。 (4) 授業の進度に合わせてワークの問題を解く。 (5) グループ学習やプレゼンテーション形式での発表を行うことがあるため、探究心を持ち、積極的な態度で臨むこと。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	プリント提出・小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第I編 現代世界の特色 第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1 観光による結びつき 2 地域間の結びつき 3 国と国の結びつき 4 地球儀と地図 中間テスト	・球体としての地球と平面としての地球の違いをそれぞれとらえ、三次元と二次元の世界を知る手段としての地球儀、使用目的に応じた地図の特色を理解する。 ・広がる世界と狭くなる地球ということが、交通の発達や情報伝達の迅速化によってもたらされていることを理解する。 ・地図が、見えない現象を視覚的に表現する有効な方法であることを理解する。
	第2章 世界の生活・文化の多様性 1 人びとをとりまく地形 2 人びとをとりまく気候 期末テスト 3 人びとをとりまく経済と文化	・生活行動や消費行動の多様性を地域間比較することで、日本の特色をとらえる。 ・世界全体から大規模な地形気候をみると、そこに類似性や規則性が見えてくることを理解する。 ・世界的視野から見た農業生産に多様な地域が存在していることを理解する。 ・民族とは何かということを整理し、民族紛争の背景には宗教や言語などが深く関わり、複雑な地域性を形成していることを理解する。
後期	4 世界各地の生活・文化 1. アジア 2. アフリカ 3. ヨーロッパ 冬中間テスト	・東アジアとロシアについて、日本と近隣諸国とのつながりをふくめて地誌的にとらえる。 ・東南アジアにおいて、ASEANを中心に多様な社会と文化、めざましい経済発展を理解する。 ・南アジアにおいてインドを例にして地誌的にとらえる。 ・厳しい自然環境と宗教を背景にした西アジアの生活・文化を理解する。 ・植民地支配の影響の残るアフリカの経済状況をふまえて今後の課題を考察する。 ・なぜヨーロッパはEUの発展に力注ぐのか。その背景と理由を理解する。
	4. アングロアメリカ 5. ラテンアメリカ 6. オセアニア 第3章 地球的課題の地理的考察 1 環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題 学年末テスト	・自然環境の多様さと豊富な資源が、アングロアメリカの発展の背景にあることを理解する。 ・ブラジルを例にラテンアメリカには多様な人種構成の国が多くあり社会問題が深刻であることを理解する。 ・オセアニアは大陸と島からなる地域に区分され、大陸では多様な自然環境があることを理解する。 ・人口、食料、資源・エネルギー、地球環境問題など、人類共通の課題を考察する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	数学総合		一斉	2単位

教科書 新編数学Ⅱ (数研出版)	副読本 数学Ⅱ Study-upノート (数研出版)
---------------------	-------------------------------

目標・ねらい
 ・平面上にある点、直線、円が式で表せることを理解し、その式を活用してオリジナルの絵をかく。
 ・微分で瞬間の速さや接線の傾きが求まることを理解し、その逆の演算があることを学ぶ。
 ・微分積分の基礎的な知識と技能を修得する。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

○科目説明
 (1) 数学を「受験科目にしない生徒」を対象とした授業を行う。
 (2) 「第3章 図形と方程式」と、「第6章 微分積分」のみを学習する。

○定期試験について
 (1) 授業内容を中心に出题する。
 (2) 試験当日に、問題集を提出すること。

○日々の学習について
 (1) 予習として、教科書の例題を読むと良い。
 (2) 復習として、その日のうちに問題集を解いて まる付けと間違い直しをする。
 (3) 各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年5回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第3章 図形と方程式 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係 中間テスト	・2点間の距離、内分点・外分点の座標を学ぶ。 ・直線の方程式は、 $y=ax+b$ または $ax+by+c=0$ であることを学ぶ。 ・直線の方程式を理解し、平行や垂直の位置関係を考える。
	円の方程式 円と直線 期末テスト 不等式の表す領域	・円の方程式から、中心と半径を求める。 ・平面上にある点、直線、円が式で表せることを理解する。 ・2つの不等式をともに満たす領域について学ぶ。 ・座標平面上に円を自在にかけるようになり、円と直線の式とで作り上げる領域によって絵を描く活動をする。
後期	第6章 微分と積分 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 秋中間テスト	・関数を表す記号を学び、平均変化率を定義する。 ・平均変化率の考え方を応用させ、「高齢者にやさしい階段」をテーマに探究学習を行う。 ・接線の方程式を求める。
	関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 冬中間テスト	・増減表を作り、グラフを描く。
	不定積分 定積分 定積分と面積 学年末テスト	・微分の逆演算について学ぶ。 ・不定積分と定積分の違いを理解する。 ・定積分を利用して、いろいろな図形の面積を求める。 ・身の回りの物の平面図を座標平面上に写し取り、直線や放物線の式を活用してその面積を求める活動をする。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	数学Ⅱ		一斉	4単位

教科書 新編数学Ⅱ (数研出版)	副読本 3TRIAL 数学Ⅱ+B (数研出版)
---------------------	----------------------------

目標・ねらい
 ・各章の考えについて理解し、基礎的な知識と技能を修得し、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

○科目説明
 (1) 数学を「受験科目にする生徒」を対象とした授業を行う。
 (2) 「数学Ⅰ」「数学A」の単位未修得者は、本科目を選択できない。
 (3) やむを得ず、「数学B」とあわせて選択できない場合は相談すること。

○定期試験について
 (1) 授業内容を中心に出题する。入試レベルの問題も出题する。
 (2) 試験当日に、問題集を提出すること。

○日々の学習について
 (1) 予習として、教科書の例題を解くと良い。
 (2) 復習として、その日のうちに問題集を解いてまる付けと間違い直しをする。
 (3) 考え方の基盤を確立するだけでなく、応用レベルの技能の習熟を得ることを目的とする。
 (4) 長期休業中には、大学入学共通テストレベルの問題を含んだプリントが配布される。
 (5) 各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年5回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1章 式と証明 式と計算 等式・不等式の証明	・整式の乗法・除法、分数式の計算を理解し、恒等式や証明等に活用できる。 ・等式や不等式が成り立つことを証明できる。
	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解	・虚数という新しい概念を理解し、基本的な計算ができる。
	中間テスト	
	高次方程式	・高次方程式が解ける。
	第3章 図形と方程式 点と直線の方程式 円の方程式	・座標を用いて直線図形、および円などの平面図形の性質や関係を調べる解析幾何的な方法を理解する。
	期末テスト	
	軌跡と領域	・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・不等式の表す領域を、座標平面上に図示することができる。
後期	第4章 三角関数 三角関数 加法定理	・弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。 ・三角関数および三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できる。
	秋中間テスト	
	第5章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数 第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数	・累乗の意味と指数法則の理解を深める。指数・対数の関係を理解する。 ・微分の定義・概念を理解する。 ・増減表を作り、グラフを描く。 ・接線・関数値の増減を理解する。
	冬中間テスト	
	積分法 面積	・積分の定義・概念を理解する。 ・不定積分・定積分を理解する。 ・面積の計算ができる。
	学年末テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	数学B		一斉	2単位

教科書 数学B (数研出版)	副読本 3TRIAL 数学Ⅱ+B (数研出版)
-------------------	----------------------------

目標・ねらい
 ・数列についての基本的な事柄と様々な数列の型を学ぶ。
 ・平面上のベクトルの概念を学ぶとともに、計算方法や意味を、代数的・幾何的に理解する。
 ・空間ベクトルの概念を理解し、空間ベクトルが有効に応用できる。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

○科目説明
 (1)「数学Ⅰ」「数学A」の単位未修得者は、本科目を選択できない。
 (2)やむを得ず、「数学Ⅱ」とあわせて選択できない場合は相談すること。
 (3)数学Ⅱとの学習効果を図るため、「第3章 数列」からはじめる。

○定期試験について
 (1)授業内容を中心に出题する。入試レベルの問題も出题する。
 (2)試験当日に、問題集を提出すること。

○日々の学習について
 (1)予習として、教科書の例題を解くと良い。
 (2)復習として、その日のうちに問題集を解いてまる付けと間違い直しをする。
 (3)考え方の基盤を確立するだけでなく、応用レベルの技能の習熟を得ることを目的とする。
 (4)長期休業中には、大学入学共通テストレベルの問題を含んだプリントが配布される。
 (5)各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年5回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第3章 数列 § 数列とその和 等差数列 等比数列 数列の和 中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 数列の基本的概念について学ぶ。 階差数列を学ぶ。 規則性を見つけ、一般項を求める。 数列の和を記号で表す。
	§ 数学的帰納法 漸化式 数学的帰納法 第1章 平面上のベクトル § 平面上のベクトルとその演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積 期末テスト § ベクトルと平面図形 演算	<ul style="list-style-type: none"> 数列の項の間に成立する関係式について学ぶ。 数学的帰納法を理解し、活用できる。 ベクトルの概念を理解し、ベクトルの計算に習熟する。
後期	成分/内積 秋中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 成分で表せることを理解する。 内積を定義し、意味と計算方法を理解する。
	位置ベクトル ベクトル方程式 第2章 空間のベクトル 冬中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 外分点、内分点を求める。 位置ベクトルは、問題解決の有効な手段の1つだと認識する。 空間内での点の位置を捉える。
	空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル 学年末テスト	<ul style="list-style-type: none"> 成分で表せることを理解する。 内積を定義し、意味と計算方法を理解する。 空間内で直線、点の存在が表せることを理解する。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	生物基礎α 科学と人間生活Bα		一斉	2単位

教科書 改訂 生物基礎(東京書籍) 改訂 科学と人間生活(東京書籍)	副読本 つかむセンター生物基礎(浜島書店)
--	--------------------------

<p>目標・ねらい</p> <p>1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学や他領域の科学を織り交ぜながら学習し、日常生活の中で科学の学習を生かそうとする姿勢をもつ。</p> <p>2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていくことができるようにする。</p> <p>3 観察・実験を通して、自然を科学的に探究する能力を育てる。</p> <p>4 自然や生命に対する畏敬の念をもち、生命を尊重する言動をとることができる。</p>

<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。</p> <p>2 定期テスト範囲の問題集を提出する。</p> <p>3 観察や実験を行い、生物現象への理解を深め、レポートを作成する能力を養う。</p> <p>4 長期休業中は、課題に取り組む。</p> <p>※高1で化学分野を学習済みなので、高2では生物分野を中心に学習を進める。</p>

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	<p>第1編 生物の特徴</p> <p>1章 生物の多様性と共通性</p> <p>2章 生命活動とエネルギー</p> <p>中間テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性、エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて理解について理解する 光合成において、エネルギーと物質の観点から理解を深める
	<p>第2編 遺伝子とのはたらき</p> <p>1章 生物と遺伝子</p> <p>2章 遺伝情報の分配</p> <p>3章 遺伝情報とタンパク質の合成</p> <p>期末テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体としてのDNAについて理解する 体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配、遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する
後期	<p>第3編 生物の体内環境の維持</p> <p>1章 体内環境</p> <p>2章 体内環境の調節</p> <p>秋中間テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体液の循環や調節に関わる機関のはたらきと体液中の物質のはたらきについて理解する 自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する
	<p>3章 免疫</p> <p>冬中間テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを理解する 自己と非自己の区別が物質レベルでなされていることに気づく
	<p>第4編 生物の多様性と生態系</p> <p>1章 植生の多様性と分布</p> <p>2章 気候とバイオーム</p> <p>3章 生態系とその保全</p> <p>学年末テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちと植生の果たす役割、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する 気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について考える

履修学年	科目	選択必修 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校2年	生物基礎B 科学と人間生活Bβ		一斉	2単位

教科書 改訂 生物基礎(東京書籍) 改訂 科学と人間生活(東京書籍)	副読本 セミナー「生物基礎＋生物」(第一学習社) サイエンスビュー生物総合資料(実教出版)
--	---

<p>目標・ねらい</p> <p>1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。</p> <p>2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。</p> <p>3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。</p> <p>4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。</p>

<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。</p> <p>2 定期テスト範囲の問題集を提出する。</p> <p>3 観察や実験を行い、生物現象への理解を深め、レポートを作成する能力を養う。</p> <p>4 長期休業中は、課題に取り組む。</p> <p>※高1で化学分野を学習済みなので、高2では生物分野を中心に学習を進める。</p>

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テストなど

年間授業計画表

	単元	目標
前期	<p>第1編 生物の特徴</p> <p>1章 生物の多様性と共通性</p> <p>2章 生命活動とエネルギー</p> <p>第2編 遺伝子とそのはたらき</p> <p>1章 生物と遺伝子</p> <p>2章 遺伝情報の分配</p> <p>3章 遺伝情報とタンパク質の合成</p> <p>中間テスト</p>	<p>・生物の特徴の1つに挙げられる、多様性と共通性について理解する。</p> <p>・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて理解する。</p> <p>・光合成において有機物であるデンプンが合成されることを理解する。</p> <p>・遺伝子の本体としてのDNAについて理解する。</p> <p>・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について理解する。</p> <p>・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。</p>
	<p>第3編 生物の体内環境の維持</p> <p>1章 体内環境</p> <p>2章 体内環境の調節</p> <p>3章 免疫</p> <p>第4編 生物の多様性と生態系</p> <p>1章 植生の多様性と分布</p> <p>2章 気候とバイオーム</p> <p>3章 生態系とその保全</p> <p>期末テスト</p>	<p>・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などはたらきについて理解する。</p> <p>・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する。</p> <p>・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを理解する。</p> <p>・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する。</p> <p>・気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。</p> <p>・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について考える。</p>
後期		

履修学年	科目	選択必修 (後期のみ)	授業形態	単位数
高校2年	生物研究		一斉	2単位

教科書 改訂 生物 (東京書籍)	副読本 セミナー「生物基礎＋生物」(第一学習社) サイエンスビュー生物総合資料(実教出版)
---------------------	---

目標・ねらい
 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- 1 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。
- 2 定期テスト範囲のノートと問題集を提出する。
- 3 観察や実験を行い、生物現象への理解を深め、レポートを作成する能力を養う。
- 4 長期休業中は、課題に取り組む。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期		
後期	第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質 3章 代謝とエネルギー 秋中間テスト	・生物の基礎である細胞の構造やはたらきについて理解する。 ・物質輸送や情報伝達、細胞構造の維持などの生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて理解する。 ・有機物分解によって得られるATPのエネルギーの変化と利用のしくみについて理解する。
	第2編 遺伝子のはたらき 1章 遺伝情報の発現 2章 遺伝子の発現調節 3章 バイオテクノロジー 冬中間テスト	・DNAの複製や遺伝子発現のしくみ、およびDNAの塩基配列変化に伴う突然変異について理解する。 ・遺伝子発現のしくみと細胞分化との関わりについて理解する。 ・バイオテクノロジーの技術の数々と応用面について理解する。
	第3編 生殖と発生 1章 生物の生殖と配偶子の形成 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 学年末テスト	・生物が同じ種を残すしくみを、細胞、染色体、遺伝子などのさまざまな視点から理解する。 ・動物の発生過程に伴う胚の変化と遺伝子発現について理解する。

履修学年	科目	選択必修 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校2年	物理基礎 科学と人間生活P		一斉	2単位

教科書 改訂版物理基礎 (数研出版)	副読本 セミナー「物理基礎+物理」(第一学習社)
-----------------------	-----------------------------

目標・ねらい
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- 1 授業プリントの作業で内容把握を行う。
- 2 授業中に小テストを行い、基礎力の向上を図る。
- 3 問題集の提出を行い、確認する。
- 4 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。
- 5 長期休業中にも問題集等の課題に取り組む。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間試験、期末試験
平常点	40	提出物(レポート・問題集・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1速度 2加速度 3落体の運動 第2章 運動の法則 1力とそのはたらき 2力のつりあい 3運動の法則 4摩擦を受ける運動 5液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1仕事 中間テスト 2運動エネルギー 3位置エネルギー 4力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> ・等速直線運動について、x-t図とv-t図の特徴と、そのグラフがもたらす情報を理解する。 ・等加速度直線運動の3つの公式を理解させ、その具体的な運用を理解する。 ・力の定義を理解する。力の具体例として重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力を理解する。 ・ニュートンの運動の3法則を理解させ、運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の大きさが摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。 ・浮力、アルキメデスの原理を理解する。 ・仕事の定義を正確に把握し理解する。 ・運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性エネルギーの式を導き、理解する。
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1熱と熱量 2熱と物質の状態 3熱と仕事 4不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1波と媒質の運動 2波の伝わり方 第2章 音 1音の性質 2発音対の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1電気の性質 2電流と電気抵抗 3電気とエネルギー 期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・熱容量や比熱の定義を理解させた上で、温度をΔT変化させるのに必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができるように理解する。 ・熱力学の第一法則を理解する。 ・ウェーブマシンを用いて、媒質中を振動が伝わっていく現象が波動であることを理解する。 ・波の重ね合わせの原理、定常波を理解する。 ・音波の性質、音の3要素を実験を通して理解する。 ・弦の振動、管の振動を実験を通して理解する。 ・帯電のしくみを電子の移動によって理解する。 ・電流がする仕事、仕事率、電力について理解する。
後期		

履修学年	科目	選択必修 (後期のみ)	授業形態	単位数
高校2年	物理研究		一斉	2単位

教科書 改訂版物理(数研出版)	副読本 セミナー「物理基礎+物理」(第一学習社)
--------------------	-----------------------------

目標・ねらい
物理的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に関する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身につける。さらに、物理の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- 1 復習を重視し、問題演習を欠かさないこと。
- 2 授業中の小テストを重視し、基礎力の向上を図る。
- 3 多くの生徒実験、演示実験を通して、物理現象の理解を深める。
- 4 長期休業中は、問題集(セミナー物理)の問題を宿題とする。
- 5 長期休業中には、実験実習を中心とした補習を実施する。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		県学カテスト・小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期		
後期	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1.平面運動の速度・加速度 2.落体の運動 第2章 剛体 1.剛体にはたらく力のつりあい 2.剛体にはたらく力の合力と重心 第3章 運動量の保存 1.運動量と力積 2.運動量保存則 秋中間テスト	・平面上の運動について、速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解し、慣れる。 ・放物運動における速度ベクトルを水平成分と鉛直成分とに分解し、定量的に理解する。 ・剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に応じて求められるようにする。 ・「物体の運動量はその物体が外部から力積を受けると変化する」こと、および、「そのときの運動量の変化量は、受けた力積の量に等しい」ことをしっかりと理解する。
	3.反発係数 第4章 円運動と万有引力 1.等速円運動 2.慣性力 3.単振動 冬中間テスト	・反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解する。 ・円運動における速さ、角速度、回転数、周期、加速度などの量の定義、およびこれらの間に成り立つ関係を学習する。 ・ある物体を異なる立場(場所)で観測するときには、異なった運動が観測される場合があることを理解する。 ・物体にはたらく力が、常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり、その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき、物体の運動は単振動であることを理解する。
	4.万有引力 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1.気体の法則 2.気体分子の運動 3.気体の状態変化 第3編 波 第1章 波の伝わり方 1.正弦波 2.波の伝わり方 学年末テスト	・万有引力の公式が得られる過程を理解する。 ・重力と万有引力との関係を理解する。 ・万有引力による位置エネルギーを理解する。 ・ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式が得られることを示す。 ・気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。 ・熱力学第一法則の式を用いて定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解する。 ・原点での単振動の式をもとにして正弦波の一般式を理解する。 ・ホイヘンスの原理から反射・屈折の法則を導くことができることを理解する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	化学研究		一斉	2単位

教科書 改訂 高等学校 化学 (第一学習社)	副読本 七訂版 スクエア最新図説化学 (第一学習社) セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)
---------------------------	--

目標・ねらい
 ・化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てる。
 ・基本的事項の理解を深め、物理化学的な概念や原理・法則を理解させ、基本的な概念や原理・法則を学習する。
 ・日常生活に用いられる化学物質について理解を深め、科学的な自然観を育成する。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- 1 授業プリントの作業で内容把握を行う。
- 2 授業中に小テストを行い、基礎力の向上を図る。
- 3 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。
- 4 多くの生徒実験、演示実験を通して、化学現象の理解を深める。
- 5 授業・補習で行った実験についてレポートを書く。
- 6 長期休暇等を利用し、課題レポート等と問題集の指定範囲を解いて提出する。

評価について

項目	割合	授業時における項目
テスト	60	定期テスト
提出物等	40	①授業プリント・実験レポート
		②課題レポートや宿題
		③小テスト・県学カテスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	I 物質の変化 2酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応を電子に着目して理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式のつくり方を理解する。 ・金属によってイオン化傾向の大きさが異なるため、金属によって反応性が異なることを理解する。
	中間テスト	
	3電池	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応を利用して電流生み出す化学電池のしくみを理解する。
後期	4電気分解	<ul style="list-style-type: none"> ・電気分解の原理を理解する。 ・水溶液の電気分解における陽極・陰極での化学反応式で表すことができる。
	II 物質の状態 1化学結合と結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成粒子・化学結合・性質について理解する。 ・結晶格子の中の単位格子、配位数、単位格子の中に含まれる粒子の数を理解する。
	秋中間テスト	
後期	III 無機物質 1非金属元素	<ul style="list-style-type: none"> ・無機物質の性質や反応を周期表に関連づけて理解する。 ・無機物質を日常生活および化学工業に関連づけて理解する。 ・さまざまな気体の発生方法と反応様式を理解する。
	冬中間テスト	
	2典型金属元素 3遷移元素	<ul style="list-style-type: none"> ・両性元素の反応を理解する。 ・金属イオンと陰イオンとの沈殿反応を利用して、金属イオンの系統分離ができるようにする。
	学年末テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	音楽Ⅱ		一斉	2単位

教科書 ON!2 (音楽之友社)	副読本 なし
---------------------	-----------

目標・ねらい
音楽の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

評価について

項目	割合	授業時における項目
関心・意欲・態度・鑑賞の能力	40	期末テスト・提出物・プリント
表現の工夫や技能	60	実技テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	世界の歌 日本の歌 音楽史 アンサンブル	・歌唱力の向上と発声の充実を図る。 ・音楽の様式の特徴とその変遷について理解する。 ・リズムと音色の調和を工夫する。
	芸術歌曲 音楽史 アンサンブル 期末テスト	・原詩を十分に味わわせ、言葉や、音楽と文学の関わりに関心を持つ。 ・音楽の様式の特徴とその変遷について理解する。 ・演奏法の習熟と視奏力の向上を図る。
後期	劇音楽 音楽史 アンサンブル	・劇と音楽の関わりについて理解する。 ・音楽の様式の特徴とその変遷について理解する。 ・楽曲の構成や曲想の把握と個性豊かな表現の工夫をする。
	日本の歌 世界の歌 音楽史 アンサンブル 学年末テスト	・歌詞の内容や曲想を把握させ、表現の充実を図る。 ・音楽の様式の特徴とその変遷について理解する。 ・フレージングや声部のバランス等、アンサンブルにおける全体の調和の工夫をする。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校2年	美術Ⅱ		一斉	2単位

教科書 高校生の美術 2 (日本文教出版)	副読本 なし
目標・ねらい ・美術の創造活動を通して、美的体験を豊かにし、創造的かつ個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・美術を生涯にわたり愛好する心情を育て、美術文化への理解を深めながら、豊かな情操を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・作業時には、制服が汚れないように十分注意し、タブリエや、エプロン、スモックなどを着用する。 ・筆記用具、教科書、絵の具バックを持参する。 ・課題によっては、必要な画材を実費にて事前購入し用意する必要がある。 ・各種コンクールへの参加は自由。 ・授業進度や、選択者の希望進路によって、課題内容の変更がある。	
長期休業課題 作品調べレポート、美術館レポート、作品制作、資料・材料集めなどのなかから、学習内容に合わせて休み前の授業内にて指示。	
事前アンケートによる課題リクエスト 鉛筆デッサン(自然物)・作品の読み解き・衣服デザイン・工芸(染色、金属、ガラス)・粘土・絵本作り・自己表現(世界観)・デザイン史	

評価について

項目	割合	授業時における項目
美術への関心・意欲・態度	20	提出物・平常点
発想や構想の能力	30	提出物(作品・計画シート)
創造的な技能	30	提出物(作品・振り返りシート)
鑑賞の能力	20	提出物(レポート)

年間授業計画表

	単元	目標
前期	建築 (4時間) 「問題を解決するデザイン」 コンzeptシート・スライド発表	・建築と人の関わりに目を向け、生活や社会を心豊かにするデザインの働きや可能性について考え理解する。 ・身の回りの建築に関心を持つ。
	鑑賞・日本美術 (5時間) 屏風 または 巻物「墨絵」	・日本美術作品の特色ある表現方法や、伝統的に引き継がれてきた日本の美意識を理解し、自作への表現に生かす。 ・支持体や墨の特性を生かした作品づくりを楽しむ。
後期	デッサン (3時間) 「静物画」	・対象を深く観察する力と、質感を捉え描写する力を磨く。 ・用具の特性や効果を生かし、対象の特徴や色彩などの表現を創意工夫して追求する。
	鑑賞 (1時間) 「デザイン史」	・芸術形式や主義を理解し、その美しさや魅力を感じ取る。
	立体構成 (5時間) 樹脂粘土 「ルネ・ラリックの作品を観て」	・芸術形式の特性と、それを表現するための画材の使用を積極的に模索し、自己表現に生かす。
	デザイン (8時間) 素材研究「紙の特性」	・目的や用途に応じて紙の特性を生かし、主体的に主題を生成する。 ・主題を表す方法を創意工夫し、手順や計画を各自で考え、見通しを持った制作を行う。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	体育		一斉	2単位

教科書	副読本
ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)	なし
目標・ねらい 自己の能力に応じた運動を選択し、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・授業形態について 前期、後期それぞれ1種目ずつ、クラス毎に実施することとする。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
実技	60	実技
定期試験	30	定期テスト
平常点	10	体育カード、授業態度、授業準備

年間授業計画表

	単元	目標
前期	体育祭準備	<ul style="list-style-type: none"> ・行進の向上 ・ラジオ体操第2の動作の徹底 ・体育祭の準備
	卓球(A組)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンド、バックハンド、スマッシュなど各ショットをラリーの中で使い分けることができるようにする。試合の審判、進行ができるようにする。
	インディアカ(B組)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の習得(パス、アタック、サーブ)。パスをつなぎ、アタックで攻撃ができる。インディアカのルールを理解し、安全にチームで協力した学習やゲームができる。
	期末テスト	

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	保健		一斉	1単位

教科書 最新 保健体育 (大修館書店)	副読本 なし
目標・ねらい ・生涯の各段階における健康について学び、適切に対応できるようにする。 ・社会生活における健康の保持増進について学ぶ。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 取り組みについて・・・各テーマについて自分の考えや意見を持ち、積極的に発表することを望む。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	70	定期試験2回
平常点	30	ノート・課題の提出
		授業への取り組み(関心・意欲・態度)

年間授業計画表

	単元	目標
前期	①思春期と健康 ②性への関心と欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・思春期の心身の発達を理解する。 ・性意識の男女差を理解する。 ・妊娠、出産の過程と妊産婦の健康について理解する。
	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 期末テスト	・家族計画と人工妊娠中絶が女性の体に及ぼす影響について理解する。 ・健康な結婚生活を営むための留意点について学ぶ。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	家庭基礎		一斉	1単位

教科書 家庭基礎 (大修館書店)	副読本 ニュービジュアル家庭科 (実教出版)
---------------------	---------------------------

目標・ねらい
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- 1 プリント、課題などは必ず提出すること。また、製作物が未完成の場合は、採点の対象にならないので注意すること。
- 2 調理実習では、班で作業することも考え、なるべく欠席のないよう体調管理に注意すること。
- 3 製作実習では、製作途中の課題を家庭に持ち帰ることは認めていない。欠席や作業の都合で授業時間中に完成できなかった場合は、放課後の補習に参加して完成させること。
- 4 長期休業中には、家庭での実践を含めたレポート等の課題がある。

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト2回
平常点	40	プリントや課題の内容、製作物の評価

年間授業計画表

	単元	目標
前期	衣生活をつくる(1)	健康で快適な衣生活を営むための被服管理に必要な、被服材料や被服構成などの基礎的な知識と技術を習得する。
	経済生活をつくる	消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考える。
	ホームプロジェクト 期末テスト	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けた生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につける。
後期	衣生活をつくる(2)	基礎的な技術をいかし、創造力を働かせた作品づくりを行う。工夫を凝らして物を作り上げる喜びを味わう。
	食生活をつくる	栄養・食品に関する知識を活用するとともに、食品衛生への配慮を考えた調理を実践し、生活を自ら創造するための基礎的技術を習得する。
	住生活をつくる 生活をデザインする 学年末テスト	安全で環境に配慮した住生活を営むために必要な基礎的な知識と技術を身につける。 生涯を見通した自己の生活について考えるとともに、主体的に生活を設計できる。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	社会と情報		一斉	1単位

教科書 社会と情報 (東京書籍)	副教材 GSuite
---------------------	---------------

目標・ねらい
コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に判断・処理するための基礎的な知識技能を習得し、高度情報化社会に対応できる能力を培う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- ・パソコン操作に優れることを目標としていない。
(ただし、基本的なパソコンの操作の修得は出来るようにする。)
- ・課題は、授業時に終わらせることが前提であるが、終わらない場合は放課後補習という形態をとることがある。
- ・実習を取り入れた授業形態となるので、座学の時間は授業進行が速くなる。座学の前は必ず指定範囲の教科書・テキスト等を読んで概要を把握しておくこと。
- ・定期試験は、前期の期末試験及び学年末試験のみ行う。
- ・授業を欠席した場合は、登校した日に授業内容の確認に来ること。
- ・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは平常点の大幅な減点対象となるので注意すること。

評価について

項目	割合(%)	項目内容
定期試験	40～60	定期試験
平常点	40～60	実習課題、ワークシート等提出物、授業態度など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	×	×
	×	×
後期	「ネットワークを探索する」 ・ネットワークとコミュニケーション プロジェクト1	インターネット上のメディアを利用するコミュニケーションの特徴と注意点について理解する。情報のもつ力を日常の出来事のなかでメリットデメリットを伝える。発表・パンフレットなど適したメディアを選択し、作成する。
	「情報社会の課題を見つける」 ・情報化の影響と課題 ・法律と個人の責任	情報化社会の光と影を理解し、情報セキュリティ、情報モラルについて学ぶ。著作権と著作権法、個人情報保護について学ぶ。
	「望ましい情報社会に向かう」 ・社会における情報システム ・情報システムと人間 ・情報社会と問題解決 学年末テスト	身の回りにある様々な情報システムを知り、新技術を使った情報システムについて考える。また、情報化の進展による社会の変化を読み取る。デジタルデバイス、ユニバーサルデザインを学ぶ。問題解決の手順と情報機器の活用例を学ぶ。身近な問題を解決し、発表する能力を養う。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校2年	宗教		一斉	1単位

教科書 聖書 新共同訳続編つき（日本聖書協会）	副読本 なし
----------------------------	-----------

目標・ねらい
 ・学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身に付ける。
 ・キリスト教の歴史を理解する。
 ・聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。
 ・生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

・夏休みの宿題として遠藤周作の作品を読む。

評価について

項目	割合	授業時における項目
宗教への興味・関心	20	修養会ノート、課題
キリスト教についての知識・理解	60	期末試験
キリスト教的価値観を表現する力	20	レポート、授業のノートなど

年間授業計画表

	単元	目標
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨハネ・パウロ二世の「平和アピール」 ・キング牧師の生涯と活動 ・アウシュビッツ収容所について 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和のために私たちができることについて意識させる。 ・差別の問題や、ナチスの思想について考えさせる。
	修学旅行に向けて ・日本におけるキリスト教の歴史 ・長崎のキリシタン殉教史 ・遠藤周作のキリスト教文学 ・その他のキリスト教文学 期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「沈黙」を中心とした遠藤周作の文学を理解する。 ・長崎を中心としたキリスト教の歴史や文化についての説明と理解。 ・ザビエルの来日から現代までのキリスト教の歴史 ・江戸から明治期におけるキリシタン殉教の歴史。 ・永井隆の文学など。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の歴史について ・キリスト教への芸術的アプローチ 美術・音楽など ・修養会について 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の近・現代の歴史を理解する。 ・絵画や彫刻、宗教音楽などに触れる。 ・指導司祭の紹介・テーマの確認・ミサや修養会の企画運営。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題とキリスト教 ・聖書に親しむ 学年末テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが感じる社会的な諸問題を挙げ、キリスト教的なアプローチを試みる。 ・各生徒に好きな聖書の言葉を選ばせ、理解を深めさせる。